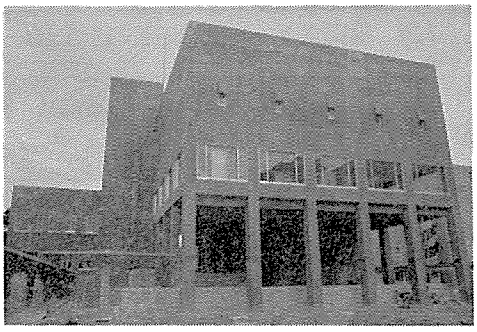
事務部長

The Osaka University Library Bulletin

大阪大学図書館報

Vol. 4 No. 5 Sept. 1970

吹田分館（仮称）完成



工事が遅れ竣工が待たれていた工学部分館は，ようやくこのほど完工し，工学部管理棟の一部に間借りをしていた分館事務室は新館へ引越しした。

しかし，東野田地区からの図書（約6万冊）の移転，配架がなお続けられ，閲覧用の家具類の納入などのため，一般開館は9月下旬ないし10月初めの予定である。

同分館の吹田地区への移転は，当初の計画では第2期（43年度）に建築にかかるはずのところ，諸般の事情のため最終第4期に延期された。この間工学部の学生・職員にいろいろな不便をかけ，とくに学部学生は狭い各学科図書室を使うことを余儀なくされ，いつ図書館ができあがるのかという問い合わせがしばしばあった。新図書館は別記のとおり，東野田時代のそれとは格段に大きく，また使い易く快適になるはずである。

新館は，43年度より実施してきた学生用図書の漸次充実とともに，まず学生のための学習図書館としての機能を充分に発揮していかねばならない。同時に工学部の，また吹田地区の図書館組織の中央館として，共通的な図書館資料の蒐集も重要な目標の一つとなる。工学部にはこの新図書館の他に，12の学科図書室があり，それぞれ研究用の図書館資料を閲覧に供しているが，これらの中には研究図書館としての機能をじゆうぶんに発揮し得ないものもあり，またこれら研究用図書館資料の極端な分散化のため総合的な，共通的な一次，二次資料などの蓄積が不充分となり，情報管理の活動をいちじるしく阻害している。この傾向は本学にとどまらず，数少ない例外を除いて大多数の大学工学部に見られる現象で，企業体や民間研究団体の情報管理者などから一様に「何とかならないか」と指摘されるところである。一方において，科学技術情報の管理組織化は，首相を議長とする科学技術会議で昨年10月採択された「NIST（National Information System for Science and Technology）計画」によって進められる方向にあるが，このままではその大きな組織化から大学は取り残されていくおそれがあり，工学関係の図書行政の今後の大きな課題となろう。

ともあれ，新館の完成によって大阪大学は3つのキャンパスにそれぞれ大きな中央図書館を得ることになり，本館（豊中地区），中之島分館，吹田分館（従来の工学部分館，産業科学研究所分館を統合して）と，付属図書館組織は一応まとまることになる。

新館の特徴を略記すると，大小２つの開架式閲覧室と１つの学生自習室，新聞，軽雑誌などのための軽読書室，１人の閲覧者が長期占有できる特別閲覧室，書庫，および視聴覚ホールなどから成り，書庫は完全自由接架式で出入ができ，書庫内でも閲覧できるよう机をとりつけてある。視聴覚ホールの機械類の設置は来年度以降になるが，映画・スライドを使った授業や会合，最新設備によるステレオ音楽会などが開催可能となるなど，多目的に使うことができる。

＜図書館の概要＞

総面積　2,957m^2　鉄筋コンクリート地下１階地上３階建。全館冷暖房。

１階　第一閲覧室――閲覧席66席，開架図書約12.千冊，その他受付貸出カウンター，事務室などがある。

２階　第二閲覧室（開館当初未設備）――閲覧席40席，図書８千冊（予定），自習室――席数72，軽読書室――８席，特別閲覧室――６室　書庫３層――120千冊収容可能，その他会議室など。

３階　視聴覚ホール（開館当初未設備）――108席，展示ホールなど

地階　倉庫，機械室，生産技術振興協会事務室

なお，図書館の使い方の詳しい案内は，近く印刷され利用者に配られる予定である。

（田中久文：運用第三掛長）

同和問題図書収集

本館では，今年度予算が決まるのをまって，時野谷教授（文学部国史学）、上田助教授（教養部社会学）のご協力のもとに，同和問題に関する図書を収集している。現在受入済または発注中のものは，雑誌４点，図書173冊であるが，このほかに，近畿２府４県および大阪，京都両市が出している関係資料の寄贈方を依頼中である。図書は本館開架室の書架に配架ずみである。

学生図書費増額される

本誌でもたびたび強調してきたように，阪大，なかんずく本館の学生用図書は，他大学に比して非常に貧弱であった。そこで昨年度来，関係方面に図書費増額を要求してきたが，去る6月24日の評議会で次のように，かなりの増額がみとめられた。（単位千円）

項　　目		44年度	45年度	差引増額	備　考
開架図書整備費		5,120	6,600	1,480	
指定図書購入費	教養課程	0	1,980	1,980	
〃	専門課程	2,910	4,370	1,460	各学部に配分
視聴覚資料整備費		0	960	960	
基本参考図書整備費		1,990	2,607	617	各分館にも配分
合　　計		10,020	16,517	6,497	

学生希望図書 —本館—

昭和45年5月～7月のリクエストで受入済みのもの

行為の総合理論をめざして
T. パーソンズ
永井道雄 他訳 日本評論社

ギリシャ神話 上・下
呉 茂 一 新 潮 社

安部公房戯曲全集 第一巻
安部公房 新 潮 社

詩画集 毒 物 F・サガン 求 竜 堂

庶民列伝 深沢七郎 新 潮 社

詩画集「旅」谷川俊太郎他 求 竜 堂

位相幾何学（共立講座 現代の数学15）
中岡 稔 共立出版

バイオリンは語る
チボー
粟津則雄訳 白 水 社

ピアノとともに
ギーゼギング
杉浦 博訳 白 水 社

複素関数論（数学ライブラリー）
梶原壌二 森北出版

接続の幾何学（数学ライブラリー4）
矢野健太郎 森北出版

安西冬衛全詩集
安西冬衛 思 潮 社

蕩児の家系
大岡 信 思 潮 社

闇のなかの黒い馬
塡谷雄高 河出書房新社

物価問題入門
美濃部亮吉 潮 出 版

システムの一般理論
O、ランゲ 合同出版

経済サイバネティックス論入門
O、ランゲ 合同出版

生物学実験法講座 全12巻
堀川芳男他 中山書店

デスク日記 (1)—(5)
小和田次郎 みすず書房

昆虫の事典
古川晴男監修 東 京 堂

幾何学基礎論
ヒルベルト
中村幸四郎 清水弘文堂

幾何学の基礎を成す仮設について
リーマン
菅原正己 清水弘文堂

現代数学演習（近代数学演習）
服部 昭 朝倉書店

カップルズ I, II
アップダイク
宮本陽吉 新 潮 社

黒人と暴力
木島 始 学芸書林

沈黙のことば
P.T.ホール
国弘正夫 南 雲 堂

地球の解剖
A. カイユ
竹内 均訳 平 凡 社

幾何学の基礎とエルランゲンプログラム
ヒルベルト 共立出版

情報人間の時代
菊地 誠 実業之日本社

まずたしからしさの世界をすてろ
多木浩二 田畑書店
中平卓馬

教官著作寄贈図書

—本 館—

溝辺敬一（教 講師）
ドイツ現代文学批判 —危機の変革—
昭45. ミネルヴァ

芦田玉一（蛋白研・助教授）
X線回折によるタンパク質・核酸・ウィルスの構造（広川化学シリーズ 24）
昭44. 広川書店

中崎昌雄（基礎工 教授）
演習 有機化学 昭45. 東京化学同人

大竹伝雄（基工 教授）
化学工学の基礎と計算 昭45. 培風館

—工学部分館—

竹本喜一（工 教授）
色接化合物の化学 昭44. 東京化学同人
化学ドイツ語入門 昭44. 朝倉書店

築添 正（工 教授）
精密測定学 昭45. 養賢堂

—中之島分館—

芦田玉一（蛋 助教授）
X線回折によるタンパク質・核酸・ウイルスの構造（広川化学シリーズ 24）
昭44. 広川書店

足高善雄（医 教授）
新産科学 昭44. 南山堂

松倉豊治（前医 教授）
医療過誤と法律 昭45. 法律文化社

螺良英郎（医 講師）
講座 病態の生化学 8：がん
昭44. 中外医学社

—基礎工学部図書室—
中崎昌雄（基　教授）
演習有機化学、R.B.Henderson 著
昭45.　東京化学同人
志村正道（基　助教授）
パターン認識と学習機械　昭45.昭晃堂
大竹伝雄（基　助教授）
化学工業の基礎と計算　昭45.　培風館
—理学部図書室—
村田一郎（理　教授）
有機化学反応機構　昭44.　広川書店
有機化学（上）　昭45.　〃

資料紹介（6）

Science Citation Index.（SCI） Philadelphia, Institute for Scientific Information. 1961→Quarterly with annual cumulations
（中之島分館所蔵）

一つの論文とそこに引用されている文献は，内容の面で相互に深い関連をもつ事実に着目して作られた新しいタイプの文献検索用の資料である。Citation Index, Source Index, Permuterm Subject Index の三部から構成されている。Citation Index は Science Citation Index（以下 SCI と略す）の主体をなすもので，毎年，世界で刊行されている科学技術関係の雑誌から主要なもの約2000種（Source Journals）を選び，そこに掲載された論文約31万余（Source Articles）に引用されたすべての文献約370万件について，「ある論文はどこで，誰によって引用されているか」を簡単に知ることができるようになっている。これは，索引誌，抄録誌等，従来の文献検索用の資料にはみられない点であり，Citation Index の利用によって，一つの論文を糸口にして関連主題の文献を容易に探しだすことができる。また附随的に，ある論文に発表された研究成果は，以後，㋑どのように展開されているか　㋺どんな評価を受けているか　㋩実地に応用されたか，などを知る手がかりをも与えてくれる。Source Index は31万余の Source Articles の著者索引に当るもので，各著者の下に，Citation Index では省かれている論文の標題を附している。Permuterm Subject Index は Source Articles のKeyword 索引で特定の事項に関する論文を探すのに役立つ。

SCI の特長は，引用文献による文献探索と，科学技術の全分野を対象にしているので，領域のわくをこえた，巾広い文献探索を可能にした点にある。科学技術分野の文献探索用の資料として，SCI は画期的なものであるが，Source Journals の数及びその選択の妥当性に問題があり，網羅的に文献を探すのには適しているとは云い難い。その特長を把握して，他の資料と並用すれば，SCI の利用効果は倍加する。なお，発行所は科学技術文献の情報提供を専門に行なっているアメリカの Institute for Scientific Information である。

（数字は1968年版のもの）　（徳村泰弘：運用第二掛長）

会　議

——図書館委員会——

45.7.17(金) 13.30～17.10　於　本館会議室

①昭和44年度運営費決算　決算を報告　②昭和45年度運営費予算　10,969千円等承認　③吹

田図書館の組織　従前の構想では，吹田地区図書館は工学部，産研，微研および蛋白研で構成するということであったが，諸般の事情により，とりあえず工学部と産研のみで構成されて，近く開館の運びになった。④諸規程の整備　吹田地区図書館の設置に関して関係規程(案)の審議を行なつた。⑤図書館の改革案　本年2月に「附属図書館の現状と問題点」というパンフレットを印刷，関係方面へ配付した。大学改革の一環として立ち遅れている学習図書館の機能をじゆうぶんに発揮するよう諸般の改善を行ない，もって教育条件の改善，図書館の使命達成のために努力してゆきたいと館長から改革構想の一端がのべられた。⑥夜間開館の充実　本年9月より，本館で実施している夜間開館をより充実するため，貸出業務を開始し，さらに4月1日付で参考掛が設置されたので，これを機会に参考業務をもあわせて実施する予定である。そのための要員として研究科学生（修士課程2年または博士課程）を考えている。勤務時間は夜間2時間勤務である。もし適任者があれば推せんしてほしいと協力方を依頼した。

——分館長会議——

45.7.17(金) 10.00〜12.10　於　本館館長室

①昭和44年度決算および昭和45年度予算(案)報告　②図書館の改革案　学園紛争を契機に大学改革案の中にも図書館の充実ということが各所に見うけられるが，学習図書館の機能は全国的にみても立ち遅れている。阪大では一貫教育検討委員会において「学生が自分で発見できるものは，教えないようにする」方針で，図書館の積極的利用が検討されているので，この教育の改革に合致した図書館の充実を固有の問題としてとりあげ，考慮してほしい旨館長から提案があった。

報告事項：①教養図書選択委員会報告　②本館増築小委員会報告　③「附属図書館の現状と問題点」のパンフレット配付　④オリエンテーションの実施　⑤視聴覚活動状況の報告　⑥OECD 寄託図書の展示　⑦コンピューター講座開講　⑧外国図書（ドイツ，イタリヤ，フランス，スペイン等）の展示

——豊中地区運営委員会——

45.7.28(火) 10.00〜12.20　於　本館会議室

①昭和44年度決算　決算書承認　②昭和45年度運営費予算　予算(案)のうち各部局分担金について来年度から総額の増加率は，各部局に配当される校費の平均増加率を目安とするという条件付で承認　③教養図書選択委員会　豊中地区運営委員長の交替に伴い，選択委員も任期満了で交替することになった。前例に従い運営委員長の指名により，次の通り新委員が決まった。池上(文)，覚道(法)，高田(経)，国富(理)，大塚(基工)，今川(教)，高瀬(教)，中野(図)，浅野(図)。なお新委員による作業は，9月の夏季休業あけ早々に開始することになった。④夜間開館　9月以降の夜間開館については，図書貸出業務の開始とあわせて参考業務の充実をはかるためその要員として研究科学生（修士2年または博士課程）を予定している。あらためて候補者の推せんを部局長へお願いすることになるので委員のご協力方を依頼した。

——中之島分館運営委員会——第36回——

45.7.31(金) 14.15〜16.00 於 中之島分館

①44年度中之島分館維持費決算報告及び45年度予算案を審議，承認。（決算報告，予算案省略） ②指定図書 本年度購入費として7514千円の配分があり，当該部局運営委員により運営，選択について，早急にとりきめることとなった。③閲覧内規の改正について 閲覧業務運営上必要のため内規の一部改正案を上程，審議の結果承認された。

——理学部図書室運営委員会——第16回——

45.8.4 於 化学系会議室

①報告 1）図書館委員会 45.7.17 2）豊中地区図書館運営委員会 45.7.28 ②学生図書費，指定図書費が決定したので1講座単位で各学科に配分 ③参考図書の選択 ④投書の処理 ⑤千原委員長9月中旬より海外出張のため3か月不在，委員長代理に国富委員が務める。

——近畿地区国公立大学図書館業務機械化委員会——第12回——

45.7.9(木) 10.30〜15.00 於 京都大学

本学出席者：田保橋，浅野，田中

〔報告〕 ①国大図協機械化調査研究班研究集会 ②科研費特定研究で東大森口繁一教授を代表とする情報処理に関する研究に，約300万円が配布決定したこと。 ③PPBS ケース・スタディ：大学図書館の管理運営の改善について中間報告(本誌3月号7頁参照)

〔協議〕 本年度の活動方針——昨年度まで高性能パンチ・カード・システムについて研究してきたが（レポートは9月中旬公表予定）どうしてもカード・ベースの限界にぶち当たった。そこで本年度は，デイスク・パック装置付のミニ・コンピューターについて研究することに決った。具体的には，現在製品化されている HITAC—10および FACOM—R についてハードウエアとソフトウエアを勉強する。昨年度作成した PCS のフローチャートをミニ・コン向きに修正する。さらに必要があれば IBM システム3の見学も実施することになった。次回は9月の予定である。

ブラートフ氏を囲む座談会

45.8.1(土) 14.00〜17.00 於 中之島分館会議室

万国博のため滞日中のソ連科学アカデミー図書館東洋部長 C.C.ブラートフ氏を招いて本館と大阪市大附属図書館が共催で，大阪地区の国公私立大学図書館員を集めて懇談会を開いた。

まず，ブラートフ氏から「ソ連における図書館事情一般」「図書館間の相互協力」「ソ連科学アカデミー図書館の組織」の三つのテーマについて1時間ほど説明があり，続いて出席者との間に質疑応答と討議があった。その主なものをあげると次のとおりである。①ソ連における図書館員の養成機関 ②相互協力 ③図書館業務の機械化・自動化 ④整理業務(目録規則) ⑤職員数と職員の地位 ⑥大学図書館の地域サービス ⑦納本制度 なおこの中で同氏は，相互利用（図書の貸出）は，社会主義国間だけでなく，他の国とも行ないたい旨述べて注目された。また学校文献の科学アカデミーとの交換申込文は日本語でもよいということである。

プリズム

Periodical Titles の省略法について

町　井　照　子

利用者から論文の参考文献に記載するための雑誌名の省略法について聞かれたり，雑誌の所蔵の有無を尋ねられたり，また文献複写の依頼を受けた時とか，いろいろな場合に実にさまざまな省略形に接する。中には1 Word として考えて，省略できない箇所で省略されている例を見たりするので，最近の雑誌名の省略法の標準化について述べて見たい。

世界的に標準化されているものとして，①Chemical Abstracts 方式(International Union of Pure & Applied Chemistry によって最初に化学分野での国際標準として採用された）と，② World List of Scientific Periodicals (1952年，International Intellectual Cooperation の国際会議で勧告されたものを取り入れた）があり，雑誌の投稿規定には，雑誌名の省略についてこれらの方式に従うように規定しているものもある。

この二つの方式も何度かの改訂をもって進んできているので，その変遷に少し触れて見ると，Chemical Abstracts に抄録された雑誌の List of Periodicals (1922年に始まる）は，1951年から1961年迄は5年毎に Author Index の後に載せられていたのが，その後，間を置き，1969年に Access Key to the Source Literature of the Chemical Sciences として，Author Index から切離されて発行された。この省略法は American Standard for Periodical Title Abbreviations〔United States of American Standard Institute (略して USASI)，1963年〕に依っていることが明記されている。なお American Standard for Periodical Title Abbreviations は1968年に更に改訂が行われた。改訂された一例を挙げると，人名が付された雑誌名の省略法は，人名が省かれたり，略誌名の後に(，)を付して人名を添えたりして統一性を欠いていたのが，Access には人名が Full Title でそのまゝ記載されている。〔①Hoppe-Seylers Zeitschrift für Physiologische Chemie→Z. Physiol. Chem. (1956)→Z. Physiol. Chem. (1961)→Hoppe・Seylers Z. Physiol. Chem. (1969)，②Justus Liebigs Annalen der Chemie→Ann. Chem. Liebigs (1956)→Ann. Chem. (1961)→Justus Liebigs Ann. Chem. (1969)〕この点についてアメリカで発行されている他の抄録誌に記載された省略法を調べて見ると，Chemical Abstracts の1956年版の省略法がそのまゝ踏襲されていたり，American Standard for Periodical Title Abbreviations の方式を取り入れている部分とそうでない部分があったりして，まだ統一がとれていないようである。

もう一つの World List of Scientific Periodicals (1927年初版）は，1964年に British Union Catalogue of Periodicals と合併し，British Union-Catalogue of Periodicals Incorporating world List of Scientific Periodicals : New Periodical Titles と誌名を新たにし，1965年以降毎年 New Periodical Titles が発行されるようになった。この二誌の編集責任者が英国の雑誌名の省略法の仕事に関係しており，1967年に Recommendation for the Abbreviation of Titles of Periodicals〔British Standards Institution (略して BSI)〕が出され，American Standard for Periodical Title Abbreviations に近づく方式を取った。その後 USASI と BSI が共同研究に乗り出し，近く A Common Anglo-American Standards が出される予定であると言われる。世界的標準一元化の兆しとして，こゝではごく簡単な紹介にとどめ，機会があれば，再びこの問題について詳細に触れたいと思っている。

（まちいてるこ：薬学部分館）

☆☆☆分館めぐり（8）☆☆☆
—経 済 資 料 室—

資料室はいまもなお動いている。日々爆発的に激増する情報量に対応するため，昭和23年学部創設以来，資料室は動きつづけている。その最大のものは，32年に旧館より現在の新館に移ったときである。急激に膨脹する資料群に対し，コンピューターの導入，資料のマイクロフイルムあるいはマイクロフイッシュ化，徹底的に省力化を図る無人書庫などの構想が，時に日程にのぼることがあるが，その実現はなお今後にまたなければならない。

—学生閲覧室—

さて，去る41年3月に，中央図書館が増築されたが，それ以前にはやくから経済学部資料室の一般図書および黒正巌，本庄栄治郎，今村幸男，花戸龍蔵，吉川秀造の諸氏の旧蔵にかかる貴重な文献やライカー文庫など架蔵図書の一切が中央図書館に移されていた。資料室には本学部全体に共通する資料のうち雑誌，パンフレット類だけが備付けられることになって，ようやく資料室本来の機能を発揮できる態勢となった。資料室主任(教授)，同委員の下に若干の資料室事務担当者（講師，助手，事務員）がおかれ，他に全学的な委員として図書館委員があって運営されている。主として資料の蒐集，整理，保管，貸出，文献奉仕などを行なう事務室の他に，教官閲覧室(2階)，学生閲覧室(1階)の設備もある。また，尨大な鴻池文書をはじめ船場の水帳および池田家文書　山内家文書・柏井家文書・中辻家文書などを架蔵し，経済史関係雑誌，辞書類を収蔵する経済史資料室と，社史・伝記などを収集している経営史資料室（3階）とが別個に設けられている。40年に入って一段と増大する資料量と処理能率の向上のため，資料室整備計画が樹立された。まず，事務担当者の作業量の調査と適正分担が計られ，以後，逐年所蔵資料の調査も行なうことになった。さらに42年にはバックナンバーおよび国連関係統計書充実5カ年計画，書架拡充5カ年計画が立案され，この実施は早速書架拡充から着手された。その後，書架(木製の廃棄と6段を7段に取替えをも含む)の新設とバックナンバーの充実とは交互に行なわれている。さらに45年7～8月の2カ月には大移動が始められ，資料の荷重に床が堪えきれない状態となった2階の書庫を1階へ移し，階下の事務室および教官閲覧室を2階へ上げる作業が最近完了した。この移動の背景にあるものは，不断に増量する資料および収納書架にある。この“いたちごっこ”は永久に続くものであろうが，いま一例を示すと，40年度に洋雑誌349種，和雑誌789種だったものが，45年8月現在では前者が620種，後者が923種（大学紀要関係623種，一般関係300種）と急増している。その他，官庁関係資料が約1,000種に及ぶ有様で，「経済学論集」とか「調査月報」とかいう同一名の雑誌が数種もあって，その取扱いにも容易でないものがある。このように備付資料の種類も5カ年間に洋雑誌で5割増となったが，書架もほぼ収容能力が倍増した。したがってバックナンバーおよび書架拡充の成果は，明年度をもって一応終了することになるが，さらに第2次5カ年計画が練られなければならない。

一方，学生閲覧室の充実も企図されている。良い環境を目指して，今夏はクーラーも設備された。プロゼクターを使用しての研究もできるようになり，電気計算機2台，マイクロリダープリンターや，リコピー2台も備えつけられ，さらに外国語会話の習熟，外人講師の講義再生のため，リンガホンも数台おかれる。研究用の手段としてこれら器具類の活用が望まれる。

いまや経済学部資料室は，広大な資料という大洋に挑む研究者に，何らかの指針となる手段を提供するため，日々自からも発展への動きをつづけるであろう。　　（高橋　記）

コンピューター講座—10月中旬開設—

NHK 映画16mm コンピューター講座を使い本年4月より学内職員を対象に始めた同講座も10月をもって終了するが新に研究者，学生を対象にした講座を3地区の図書館で開設する予定である。現在の予定では毎週2時間で約3か月間（10月中旬から始め2月下旬）で終了するが希望者は自由に受講できる。

◆豊 中 地 区　本館　視聴覚室　10月13日(火)から毎週(火・金) 12.30〜13.30
◆中之島地区　中之島分館　視聴覚室　中図ニュース10月号（Vol 5. No. 10）参照
◆吹 田 地 区　吹田分館　AV ホール（設備が完成していないので開講の見通しがつき次第お知らせする）

国立学校図書専門職員採用試験

人事院，文部省による今年度の国立学校図書専門職員採用試験上級・中級が下記の要領で全国一斉に行なわれる。採用予定人員は上級甲10名，上級乙11名，中級33名の計54名である。

第1次試験　上級　45年11月7日(土) 8日(日)，中級　45年11月8日　全国8都市
第2次試験　上・中級　46年1月8日(金) 全国5都市
申込受付期間　9月18日(金)〜10月8日(木)
申込用紙請求および申込場所　人事院各地方事務局（大阪市人事院近畿事務局
大阪市東区法円坂6—25　電 06—941—2121）

マ イ ク

本　館

—開架室整備—

45年度に購入される予定の約8000冊の図書を配架するため，開架室中央部に置かれていた低書架をスチール製高書架に替え収容力の増加をはかった。また参考図書コーナーにも高書架を置き現在より約400冊多く配架できるようになった。

—木曜映画会・FMコンサート（視聴覚室）—

毎週木曜日12時30分から約1時間文化映画や産業映画を上映している。FMコンサートは，12時30分から13時30分まで。(月) ジャズ，(水) 映画音楽，(金) タンゴ，13時30分からクラシック音楽を流している。

—基礎工学部図書室—　特別閲覧室を廃止し，特別閲覧室に置かれていた洋雑誌，および書庫内に配架されていた抄録誌，参考図書類を利用しやすいよう閲覧室内に配架した。能率向上をはかるためカウンターを事務室側に移し，そのため学生の持物を入れるロッカーを設置するなど大々的な模様替を行なった。研究図書室として少しでも静かな雰囲気で図書を利用してもらうのが目的である。

日　程

7月9日(木)　近畿地区国公立大学図書館協議会　業務機械化委員会（京大）
〃　　仝　　参考図書に関する委員会（大阪女子大）
〃21日(火)　　仝　　新聞分担保存打合せ会（大阪共済会館）
〃28日(火)～29日(水)
第9回国立大学図書館協議会司書職制度調査研究班委員会（東大）
〃30日(木)　近畿地区国公立大学図書館協議会　開架図書研究集会（阪大）
8月10日(月)　　仝　　参考図書に関する委員会(神戸外大)
〃 6日(木)　国立大学図書館協議会　新らしい大学図書館像特別委員会（京大）
〃26日(水)　近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会（大阪市大）
9月30日(水)～10月1日(木)
第17回国立大学図書館協議会総会（京大）

行　事

研　修　会

徳村掛長（中之島分館　運用第二掛）
昭和45年度近畿地区人事行政研修　7月14日(火)～17日(金)　国立淡路青年の家
岩井掛長（本館　参考掛）木本掛長（中之島分館　整理第二掛）
昭和45年度大学図書館専門職員長期研修　7月28日(火)～8月22日(土)　図書館短大他
藤田事務官（中之島分館　調査資料掛）
昭和45年度近畿地区国立学校会計事務研修　8月18日(火)～22日(土)　国立淡路青年の家

人　事

来　訪　者

6月30日(火)　黒住　武　東京大学附属図書館閲覧課長　外2名
8月5日(水)　黒田良信　米国議会図書館東洋部日本課長

職員の異動

採　用　泉　　文雄（8月1日付参考掛）
　　巽　　寛（　〃　運用第一掛）
配置換　榎田順治（　〃　総務掛へ)(医学部教務掛)
　　服部和夫（　〃　微研病院管理掛へ)(本館総務掛)
　　加島美代子（9月1日付　整理課　整理第一掛へ)(整理課受入掛)
　　森　三枝子（　〃　〃　〃　)(閲覧課運用第一掛)
　　尾崎　一雄（　〃　〃　〃　)(整理課整理第二掛)
　　茂幾　周治（　〃　〃　受入掛へ)(　〃　〃 第一掛)
　　藤川　俊三（　〃　〃　整理課第二掛へ)(閲覧課運用第二掛)
　　藤原　　修（　〃　〃　〃　)(整理課整理第一掛)
　　西屋　千洋（　〃　閲覧課運用第二掛へ)(　〃　〃 第二掛)
　　河崎戎三（9月1日付　基礎工学部図書室へ)(閲覧課運用第一掛)

編集スタッフ　編集兼発行人　中野六郎　委員　田保橋彬（長）岩井　勇　松浦　正
津田恭司　山下　進　和久真弓　安井和子
レポーター　徳村泰弘　田中久文　町井照子　近藤敬子　篠田恭子　河崎戎三

大阪大学図書館報　Vol.4 No.5 通巻18号　昭和45年9月1日（隔月刊）　編集発行人　中野六郎
発行所　大阪大学附属図書館　豊中市待兼山町1の1（〒560）　☎豊中 068 (56) 1151 内線 2126